

# 訓練会場設営における留意事項

## 1 共通事項

- ・各サイトは、1 都県大隊以上の部隊が「部隊運用訓練」実施時間内において十分な活動を行うことができ、かつ時間内に収まらないほど充実した実災害に合わせた仕様とすること。
- ・各サイトの設営にあたっては、事務局の訓練担当者と綿密に協議し、実災害現場に近い状況を再現すること。
- ・各サイトにおいては、実災害を想定した活動環境を構築し、部隊が状況評価、安全管理、救助計画立案等を実施できる構造とすること。
- ・高度救助資器材、映像伝送装置、ドローン等を有効に活用できる環境を構築すること。
- ・各サイトの設営については、時間経過とともに活動環境の変化ができるものとする。
- ・各救出訓練サイトには、過去の災害を再現したダミー又は生体の要救助者を配置するとともに、それに準じた外傷程度とするよう人命救助活動訓練が行える構造とすること。
- ・新設部隊（情報統括支援隊・安全管理部隊・救急特別編成部隊）の能力・運用を検証できる環境を構築すること。
- ・参観者の来場に伴う動線管理、参観場所などの安全を確保すること。（※黒羽刑務所跡地では消防関係者などの参観だけでなく市民による見学も企画）
- ・各サイトの詳細については、本留意事項を参考に、訓練担当者と協議のうえ決定すること。

## 2 各サイトの留意事項

【第1 訓練会場 黒羽刑務所跡地】（訓練時一部区画は他機関で営業中）

### A 多重衝突事故救助訓練（トンネル崩落）

- ・トンネル崩落事故を想定した環境を構築し、複数車両が巻き込まれた状況を再現すること。

### B 土砂災害救助訓練

- ・木造倒壊家屋、埋没車両等を活用し、実災害を想定した活動環境を構築すること。
- ・倒壊家屋や土砂埋没家屋は Rescue Training Module®又は同等の機能を有する訓練設備を配置すること。

### C 座屈倒壊建物救助訓練

- ・RC造建物の倒壊を想定した構造物を設置し、都市型搜索救助活動が実施できる環境を構築すること。
- ・穿孔突破、重量物排除、ショアリング等の活動が実施できる環境を構築すること。
- ・狭隘空間、複数進入口等を設定し、隊員が救助計画を検討できる構造とすること。
- ・必要に応じて Rescue Training Module®又は同等の機能を有する訓練設備を活用し、都市型搜索救助活動が実施可能な環境を構築すること。

### D 中高層建物訓練（大規模陥没）

- ・中高層建物周辺における大規模陥没災害を想定した環境を構築すること。
- ・高所進入、ロープレスキュー等を活用した救助活動が実施できる環境を構築すること。
- ・倒壊木造家屋を配置し、複合災害を想定した活動環境を構築すること。
- ・大規模陥没現場に設置する倒壊木造家屋は Rescue Training Module®又は同等の機能を有する訓練設備を配置すること。
  - ※ 庁舎及び施設の損傷防止 屋上緑色メッシュフェンスの損傷注意
  - ※ 陥没区域庁舎寄り及び中央部には給排水配管があるため損傷注意
  - ※ ヘリ隊員投入について、ヘリが視認できた時点で2棟の建物屋上には安全管理者を含め建物内部に避難すること。

#### E ヘリ搬送訓練

- ・黒羽刑務所跡地内訓練会場エリア A～D の4エリアの重篤な外傷傷病者2名程度を運動場から県内外拠点病院（仮想）へ搬送する。
  - ※ ヘリ活用にあっては、エリアD中高層建物救助（大規模陥没）が隣接し、ヘリによる風圧の危険が少ないヘリの活用とする。
  - ※ 上記ヘリ活用が難しい場合は、付近の場外離着陸場からの搬送とする。
  - ※ 運動場には照明設備がないため、15時00分～16時00分までの間に救出された傷病者を搬送対象としてトリアージさせるよう運営を計画すること。

#### 【第2訓練会場 東京石材株式会社】

- ※ 本会場については、別途発注業務により実施する予定であり、本業務の対象外とする。

#### 【第3訓練会場 南摩ダム】

- ※ 本会場については、別途発注業務により実施する予定であり、本業務の対象外とする。

#### 【第4訓練会場 カンセキスタジアムとちぎ】

- ※ 本会場については、別途発注業務により実施する予定であり、本業務の対象外とする。